

2020年3月

島根原発・エネルギー問題松江地域連絡会 会員ほか関係各位

松江地域連絡会
代表世話人 中村栄治
事務局長 安達進

松江地域連絡会からののお知らせとお願い

春の兆しとなってきた嬉しい反面、新型コロナウイルス感染のことでは日本だけでなく世界中が大変なことになってきています。少しでも早い終息を願うものです。

さて、今年度(2019年度)、誠に遅くなりましたが、今回、ニュースレターをお届けさせていただきます。いくつかの文書を送付させて頂き、お知らせとお願いを致します。今後とも引き続き、皆様のご理解、ご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

記

1. 今回送付いたします文書

- ①お知らせとお願い：当文書
※裏面の「ニュースレター発行によせて」もご一読を
- ②松江地域連絡会ニュースNo.16
- ③関連団体の取り組みと各種情報提供
- ④「小泉純一郎氏講演会(2019.2.16)」～その表話と裏話～
- ⑤会費・寄付について・ゆうちょ銀行「払込取扱票」

2. 島根原発・エネルギー問題県民連絡会の取り組み

別紙の「関連団体の取り組みと各種情報提供」を参照下さい。

☆県民連絡会の活動等は、適宜、県民連絡会ホームページに掲載し、情報発信していますので、詳しくはこちらを閲覧下さい。〈HP〉 <http://midori-eneren.com/>

3. 再エネ・省エネへの取り組み

松江地域連絡会の関連団体である市民共同発電まつえでは、モデル的な市民共同発電所「内中原太陽光発電所」の運営をはじめ、エネルギー・カフェの毎月開催、各種学習会・研修会等を随時開催しています。

4. その他のお知らせ

- ・県民連絡会以外の関連団体の取り組みや各種情報提供も別紙「関連団体の取り組みと各種情報提供」に載せています。ご覧ください。
- ・松江地域連絡会では、会員や協力者の皆さんからのご提案やご意見もお待ちしています。ご遠慮なく送って下さい。

5. 会員および会費・寄付について

別紙「会員および会費・寄付について」を参照下さい。

(裏面に続く)

＜松江地域連絡会の事務所など＞

〒690-0061 松江市白潟本町43番地 STICビル 3階A2

島根原発・エネルギー問題松江地域連絡会

<TEL> 0852-22-7316 <FAX> 0852-35-5128

<HP> <http://midori-eneren.com/matsue-eneren> (県民連絡会サイト内に開設)

<E-mail> matsue-eneren@midori-eneren.com

※TEL/FAXは、島根原発・エネルギー問題県民連絡会と同じです(共用)。

※市民共同発電まつえも同じ住所・連絡先です。

ニュースレター発行によせて

2020年（令和2年）が明けるとともに、中国・武漢に端を発した新型コロナウイルスは、この2カ月間で、中国内はもとより日本や韓国をはじめ、世界中に広がりがつづいています。日本国内でも感染者が広がり、学校の一斉休校要請による混乱の渦の真ただ中です。当団体の関連団体などでも予定されていた講演会・集会がどんどん延期や中止になってきています。この新型コロナウイルスに感染しない・感染させない日々の努力はもちろんです、新型コロナウイルスの感染が少しでも早く終息することを願うばかりです。当初、武漢加油・中国加油と言っていました、最近では日本加油・韓国加油・世界加油になってきました。この息苦しい状況の中で、中国への支援物資の箱に貼ってあった、漢詩の一節「山川異域、風月同天」にまつわる反響の話は心温まって良かったですね。

さて、原発・エネルギー関係では、あの2011.3.11東日本大震災、つまり福島第一原発事故からこの3月で丸9年経ちます。この中で、東北電力女川原子力発電所2号機が2月26日に審査合格となり、地元同意を求められるフェーズに移っていきます。その矢先に宮城県議会において野党議員連合で議員提案された「2号機再稼働の是非を問う住民投票条例案」が自民党の数の論理により、本会議冒頭で趣旨説明もされないまま否決される暴挙が起きています。こういうところからも国政ももちろんですが、地方議会・議員という政治の世界をどうまっとうにするかが問われています。

振り返って、当地にある島根原発2号機ですが、女川原発2号機とおなじ沸騰水型ということもあり、審査が加速し、今年内に審査合格が出る見込みとなっていて、宮城県と同じように地元同意が求められるフェーズに移ると見込まれます。宮城県と同じように地元でもこれにどう対応するかが大事な局面となります。

一方、再エネ・自然エネの分野では、FIT開始から10年が経ってきて、家庭の太陽光発電を含め小規模再エネ発電所でも卒FITにどう対応するか、あるいは4年に一回の点検が必須になってきて、身近なところでも再エネ・省エネを引き続いて進めることはもちろんのこと、これまで行ってきた発電をどう維持・継続するかのアクションも必要になってきます。ちなみに我が家では、昨年夏、我が家の契約電力会社を中国電力から自然エネ100%の新電力会社に切り替えました。この切り替えはすごく簡単で、また、心配していた地域停電時などのサポートは、送配電担当の中国電力がこれまで通りやってくれるとのことで安心です。半年以上経ちましたが何の変わったこともありません。ささやかな抵抗ですが、切り替え数が多くなれば原発一基分くらいにもなりましょう。皆さんも検討してみられませんか。

2020年は、このようないくつかの大事な節目の年になります。松江地域連絡会は、会員の皆さんとともに、このような動きに対応していきますので、一緒に協力して取り組んでいきましょう。

なお、昨年2019年2月16日に島根県民会館において「小泉純一郎氏講演会」を開催し、約2000人の大勢の人々に参加・聴講頂きました。誠に日は経っていますが、このたび、その講演会にまつわる表の話・裏の話の別紙に載せ同封しましたので、読んでみて下さい。

（記 安達進）